

古賀市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)パブリック・コメント実施結果

平成27年10月30日 経営企画課

古賀市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対してパブリック・コメント手続を実施した結果について、古賀市パブリック・コメント手続実施要綱(平成20年3月告示第20号)第11条第1項の規定に基づき、次のとおり公表します。

(1)政策等の題名	古賀市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略
(2)政策等の案の公表日	平成27年9月10日(木)
(3)パブリック・コメント手続の実施期間	平成27年9月10日(木)～平成27年10月9日(金) (30日間)
(4)意見等提出者数	10名(団体含む)
(5)提出意見等件数	73件
(6)提出意見等を考慮した結果及びその理由	下記のとおり
(7)その他の修正点	下記のとおり

■ 提出意見等を考慮した結果及びその理由

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
1	全体の構成	・状況分析の資料が多く、総合戦略(素案)までが長い。状況分析を要約し、足りない分は総合戦略(素案)の後に参考資料として掲載してほしい。	本総合戦略については、全体版と別に概要版の作成を予定しています。概要版については、ご指摘の内容を承り、状況分析を要約又は省略し、総合戦略部分の内容がわかり易い構成に努めてまいります。	ご指摘のとおり素案においては、本市の概況・産業特性・アンケート調査概要といった分析資料が多く掲載されております。人口ビジョン及び総合戦略の方向性の根拠となることから掲載させていただいておりますが、今後予定しております概要版の作成におきましては、本体部分である総合戦略の内容が簡潔に伝わる構成となるよう努めてまいります。
2	全体の構成	・国の白書などにみられるように、各図表に、図表番号または資料番号を示していただき、本文でどの図表をさして考察をいただいているのかがわかるように記述をお願いできませんでしょうか。	ご意見として承ります。図表分析については基本的に同頁において記載していることから、図表番号等は記載しておりません。今後の戦略見直し時において図表等を追加する場合に検討いたします。	同左
3	全体の構成	・各目標について、始点の数値と、到着時点の数値が対比されるように表示してほしいです。変動幅を示すのか、結果の数値を示すのかよくわかりませんでした。第四次総合振興計画での目標値表示と同様な形で掲載していただけたらありがたいです。	各KPI(重要業績評価指標)について、始点の参考値として「基準値」の記載を追加します。	ご意見を承り、左記のとおり総合戦略を修正します。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
4	全体の構成	<p>・アンケートに使用した調査票も資料として添えていただきたいです。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>市民アンケート等に使用した調査表については、資料として公開を検討させていただきます。</p>
5	全体の構成	<p>・地域助成活躍推進交付金、地域少子化対策強化交付金、地域住民生活等緊急支援のための交付金など「地方創生」と「総合戦略」に絡んで取り組まれている事業一覧が参考資料として出てくるとわかりやすくありがたいです。</p>	<p>総合戦略の政策パッケージに沿って取り組む「主な事業」について、全ての基本的政策において追加して記載します。</p>	<p>ご意見を承り、左記のとおり総合戦略を修正します。国の地方創生に関連する交付金・補助金関連事業については、来年度以降の予算編成を踏まえつつ、わかり易く説明できるよう留意いたします。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
6	推進体制	<p>・総合戦略策定準備のための会議が設置され、いろいろな形で議論があって、その会議が多様な主体のプラットフォームになっていけば、各主体間での理解や、戦略的な行動と共働の糧になっていたような気がします。いきなりパブコメになったのは、ちょっともったいない気がしています。平成28年度には、第四次総合計画の後期基本計画の策定や、そのための前期基本計画の検証などが始まるかと思いますが、1年度前倒して、総合戦略をもっと読み込んだり活かすための会議と、後期基本計画への反映を目的とした会議を併せもつ性質の審議会のようなものを今年度から設置してしまってもいいでしょうか。</p>	<p>「総合戦略の検証と改善」について、下記のとおり記述を追加します。 「計画期間中の総合戦略における各施策については、定期的な検証と改善を行うことにより、本市をとりまく情勢の変化に対応した有効な進捗を図る必要がある。 検証については、施策や事業に対する市民の声を反映させるとともに、産官学金労言といった各分野の有識者の参画を得た検証機関を設置し、庁内関係部署とともに調査・検証を行うことにより定期的な改善を図るものとする。また、必要に応じて人口ビジョン及び総合戦略の改訂を実施し、変化する社会情勢に応じた効果的な施策・事業の推進を図る。 このような検証と改善を実施することにより、数値目標やKPIをはじめとした戦略効果をより高めながら、総合戦略におけるPDCAサイクル（戦略策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）を効果的に循環させる仕組み）の確立をめざしていく。」</p>	<p>総合戦略の検証と改善については、左記のとおり記述を追加します。 第4次古賀市総合振興計画後期基本計画への反映等へのご意見については、今後の参考にさせていただきます。</p>
7	I. 本市の概況	<p>・国に提出する資料ということが念頭にあるためと思いますが、国勢調査ベースでの人口推移とあわせ、住民基本台帳ベースの人口推移も掲載していただけないでしょうか。コラムのような位置づけでも構わないと思います。 また、住民基本台帳ベースの推移については、平成27年までのものがあると思いますので、その数値での議論も参考とできるようにしたほうが、先々戦略的な行動をとりやすくなるのではないのでしょうか。</p>	<p>人口ビジョンにおける人口動向分析に関する記述を追加します。 「(6)地域5区分による純移動の状況」を追加</p>	<p>該当部分は長期的な観点からの人口分析を行う観点から、国勢調査ベースでの分析を記載しております。ご指摘の近年の短期的な人口推移については、人口ビジョン（素案47～58ページ）における人口動向分析において自然増減・社会増減についての分析を深め、総合戦略に反映させてまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
8	I. 本市の概況	<p>・単身世帯の増加や、核家族化の進展が古賀市においても進んでいるのではないかと思います。そうした現実を示すグラフ（一世帯当たりの構成員数等）も追加されてはいかがでしょうか。志縁・地縁のコミュニティの結束が残念ながら薄れがちになる要因の一つになっているのではないかと思います。ヘルステーションの設置や、学校を舞台としたコミュニティづくりに歩みを進めなければならない根拠として示せるのではないかと思います。</p>	ご意見として承ります。	<p>「1世帯あたり人員」の推移については素案2ページ下段の表において記載しています。</p> <p>ご意見のとおり昭和30年の5.75人から平成22年には2.69人へと核家族化と単身世帯の増加が進んでいることから、本総合戦略においても「小さな拠点」の形成推進等により地域コミュニティの活性化に取り組んでまいります。</p>
9	I. 本市の概況	<p>・「上位計画等」とありますが、今回の「戦略」は、人口増に向けてどのように力を入れて公共空間の中で多様な役割分担の中、総合振興計画とそれを構成する個別計画を地域ぐるみで遂行するかを示すものであるかと思います。したがって、総合戦略の上に計画があるかのような、戦略と計画を混同するかのようなタイトルは避けるべきではないかと思います。代替として、「総合戦略の位置づけ」というタイトルにしてはいかがでしょうか。</p> <p>また、そのうえで第四次総合振興計画と個別計画に対する総合戦略の位置づけを記述・図示してはいかがでしょうか。</p>	第4次古賀市総合振興計画と本総合戦略の関係について、説明の記述及び図示を追加します。	<p>第4次古賀市総合振興計画（マスタープラン）は古賀市における最上位計画であることから、「上位計画等」の標題を使用しております。</p> <p>同総合振興計画と総合戦略の関係についてはご意見を承り、左記のとおり総合戦略に追記します。</p>
10	I. 本市の概況	<p>・第四次総合振興計画と、個別計画のうち2計画が代表例として紹介されていますが、数ある重要な個別計画についてこの2計画だけ抜粋される意味がよくわかりません。</p> <p>①内容まで掲載することは困難でも、多様な個別計画に基づき計画的に事業が進められていることを示し、その個別計画をどのように戦略的に執行するかを市民が理解できるよう、個別計画の一覧を掲載していただけないでしょうか。</p> <p>②数ある個別計画のうち、「生涯学習計画」「創業事業支援計画」「補助金改革計画」など、総合戦略に直接に内容が記載されリンクしているものについては、ぜひ同様にピックアップして内容解説をお願いします。</p>	ご意見として承ります。	<p>第4次古賀市総合振興計画（マスタープラン）は古賀市における最上位計画であり、古賀市都市マスタープランと古賀市子ども子育て支援事業計画は本総合戦略との関係性が極めて高いことからそれぞれ概要を記載しております。</p> <p>ご指摘のとおり他にも総合戦略に関係する個別計画が存在することから、その関係性についてはわかり易い説明に努めてまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
11	I. 本市の概況	<p>・現時点で着手されている面的整備事業のうち、社会資本整備総合交付金による「古賀中央地区」が紹介されていますが、「古賀市地区」も紹介されてはと思います。農業集落排水やJR線の跨線橋など、重要な面的整備を進めていただいていると思いますので、そうした取り組みを市民ができるようにしてはどうかと思います。</p> <p>また、高田地区の区画整理事業なども取り上げていただけたらと思います。</p>	<p>「4. 宅地開発及び地区別人口の傾向」の図面において、高田地区土地区画整理事業の位置図を追加いたします。</p>	<p>ご指摘のとおり古賀中央地区(地方都市リノベーション事業)の他にも面的整備事業を実施しております。古賀中央地区については、(仮称)生涯学習センター等の整備が本総合戦略における基本目標Ⅳ「まちづくり創生」との関連性が極めて高いことから、概要説明を記載しております。高田地区の区画整理事業については、4ページの「4. 宅地開発及び地区別人口の傾向」において記載しており、図面にも同地区の位置を追加いたします。</p>
12	都市イメージ (戦略イメージ)	<p>・女性や若者に選ばれる子育て・教育応援都市「こが」キャッチフレーズは、とても素敵です。ただ、実際に古賀市として取り組もうとしていることがニーズにあっているのか、ということを検証する必要があるのかな？という総合戦略になっているように感じました。市政に、住民を巻き込めるような、仕組みがいののではないかなと感じております。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。(第4次古賀市総合振興計画における「都市イメージ」との混同を避けるため、「都市イメージ」を「戦略イメージ」に改めます。)</p>	<p>本総合戦略の策定においては市民アンケート等を実施しており、今後も市民ニーズの把握に努めてまいります。併せて、人口減少問題の克服や地域成長力の確保による「まち・ひと・しごとの好循環」をめざして策定してまいります。</p>
13	基本目標Ⅰ しごとの創生(1)	<p>・「市商工会と連携し」を削除した記述にしたほうが良いと思います。これは、商工会さんを軽んずるものではなく、重要な役割を果たされることは間違いないものと思っておりますが、商工会加盟事業者に限定されない【事業者全体の経営支援(たとえば医院や社会福祉法人等)】や、商工業以外の事業者の支援という視野もある取り組みとなることを願うものです。また、市商工会さんのほか、経営革新等支援機関として中小企業庁に認定されている税理士事務所や金融機関が多数存在しており、古賀市役所をハブとして多様な主体による経営支援体制の構築を行い、より戦略的に市内事業者を支えられる体制を目指してはどうかと思います。繰り返しますが、この意見は商工会さんを軽んずるものではなく、より既存会員さんの支援のみならず各支援機関との調整役も期待する意見として受け止めをお願いいたします。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>経営支援等については、市商工会や金融機関など関係機関と連携し、対象については新規起業者などを含め商工会加盟事業者に限定することなく広く実施してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
14	基本目標Ⅰ しごとの創生(1)	<p>・「経営指導」という言葉について、商工会さんが会員事業者に対し経営指導員さんによる指導であれば適切だと思いますが、この文章が古賀市行政を主語とした文章であるならば、指導ではなく支援という言葉のほうがよいのではないのでしょうか。行政がこの言葉を使うと、いわゆる「行政指導」として受け止められる可能性があり、かなり必要以上に強制力のあるイメージをもたらしますし、本来、付加価値を自立的に生み出すべき事業者さんが行政に甘えてしまうことにもつながりかねません。また、営利事業者に対し、経営継承やそれを実現できるほどのノウハウ提供を行政が行うことは、特定の事業者との適切な距離感について行政が誤解を受ける可能性が生じるのではないのでしょうか。そういう事態を避けるために、指導ではなく支援と言葉を変えるか、主語を明確にしたほうがよいと思います。なお、支援と置き換える場合は、「課題やニーズに応じた支援を必要に応じて行う」という表現ができるので、文章としてもすっきりすると思います。</p>	<p>「基本目標Ⅰ.しごとの創生(1)活力に溢れた地域経済実現に向けた中小企業の強化」において下記のとおり修正します。 (修正前)「市商工会と連携し、事業継承やノウハウ提供など、市内中小企業が抱える課題やニーズに応じた経営指導を行い、必要に応じた支援を行う。」⇒(修正後)「市商工会と連携し、事業継承やノウハウ提供など、市内中小企業が抱える課題やニーズに応じた積極的な経営支援等を行う。」</p>	<p>ご意見を承り、左記のとおり総合戦略を修正します。</p>
15	基本目標Ⅰ しごとの創生(1)	<p>・この項目の実現のために、商工会の経営指導員さんや金融機関・士業の方などを相談員として、商工会の加入の有無関係なく相談できる、行政としての「古賀市創業支援センター」等の相談窓口を設置を検討してほしい。当面としては、市役所や、図書館に隣接する生涯学習センターの中に不定期(週二日とか、予約制とか)の窓口だけかまわないと思いますが、商工会さんによらない窓口があるといいと思います。そもそも起業前の相談をうけることから、商工会さんの存在すら知らないことを想定して検討いただけたらと思います。また、その創業支援センターについては、営利事業のみならず非営利事業の創業についての相談も受けられるように工夫していただきたい。そのために、市民活動支援・共働担当部門や男女共同参画担当部門ともしっかり連携した、境界領域を担当するセンターとして設計していただけたらと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>創業支援の相談窓口としては、市役所内担当課(建設産業部商工政策課)と市商工会において実施しているところです。「センター」の設置等による相談窓口の規模拡大については、ニーズについて調査研究してまいります。</p>
16	基本目標Ⅰ しごとの創生(2)	<p>・チャレンジしたいと思ってる方を掘り起こすという意味で「まちの部活サロン」などは、とても魅力的な企画だったと思います。 ・・・が、その後の支援が、ほとんどなく、相談窓口もコミュニティ室のみ。 実は、ここからが大切で、商工会につないであげたり、という流れが必要なのではないのかな、とは思っています。なかなか自発的には集まれない参加者さんのコミュニケーションをはかる会を年に1回だけ開催する、などの継続的な支援があれば、プラスになるのではないのでしょうか。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>まちの部活サロン」は、地域活動に関わるきっかけづくりを行う目的で実施しており、創業支援を目的とはしておりませんが、情報交換の場づくりなどのご意見は今後の参考とさせていただきます。 創業支援については、今後庁内横断的な政策間連携による事業展開に取り組んでまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
17	基本目標Ⅰ しごとの創生(2)	<p>・特に自分らしくチャレンジできる環境を期待しているのは、女性の方であることは間違いありませんが、あわせて「シニア層」も入れていただき、「特に女性やシニア層を意識しながら、自分らしくチャレンジできる環境づくりを目指す」という表現で併記していただけないでしょうか。定年延長・年金受給年齢の先送りなど、人生の先輩方が雇用のみならず起業により生涯にわたるチャレンジをできる環境が求められていると思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>高齢者の生きがいづくりについては、「基本目標Ⅳ.まちづくり創生 (5)健康長寿社会の構築と高齢者・障がい者の活躍推進」において推進してまいります。</p>
18	基本目標Ⅰ しごとの創生(2)	<p>・この文章では、同プロジェクトに参加する女性が農業生産者に限定されているイメージを受けました。女性の農業生産者すなわち一次産業の従事者だけで情報の発信と収集を行うことを目指すことは、当事者意識の向上としては大切かもしれませんが、本来の農業に力を入れたい女性の方に対しては重荷となったり、本来の農業生産に支障をきたしたりする結果にならないでしょうか。また、本来期待した情報発信スキルの効果や、販路開拓としての情報発信力が十分に確保されるのかが心配になりました。農林水産省版「農業女子プロジェクト」では、情報発信をしたい企業や、商品開発を行いたい企業がむしろ商品化や情報発信を担っている部分があり、そのプロセスを農業者が共有することで、結果として女性農業者が自らの仕事に誇りを持ち、また、自らが営む農業での販路開拓や商品化に持ち帰るような、多主体による循環的な相乗効果を狙っているように思います。古賀市版もそのイメージを期待されているのではないかと思います。もう少し総合戦略上の主体間連携について表現を整理されてはいかがでしょうか。</p>	<p>「基本目標Ⅰ.しごとの創生 (2)若者や女性がチャレンジする魅力あふれる新規ビジネス企業支援」において、古賀市版農業女性プロジェクトを推進してまいります。</p>	<p>農業女性プロジェクトにおいては、女性農業者と企業のニーズを結びつけ、新たな商品やサービス情報の発信を推進します。</p>
19	基本目標Ⅰ しごとの創生(2)	<p>・創業・起業を志す方にとって、大学や研究機関との連携は大切ですが、必ずしも古賀市役所が連携協定を結んだ大学等には限られないので、支援対象者が大学とのかかわりを活かせるようにノウハウを提供するようなサポート体制に関する記述を併記してほしい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>現在連携協定を締結していない大学等との連携については、創業希望者のニーズを踏まえながら調査研究してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
20	基本目標Ⅰ しごとの創生(3)	<p>・たくさんの食品工場があるのは、とても強みだと思います。 その反面、古賀市＝工場のイメージがあるそうです。(福岡の方々) 職住近接は、実はとても素敵な事なので、工場で働いている方々にも古賀に住んでいると、いいことあるよ、なイメージをつけられるような取り組みがあるといいなと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>「基本目標Ⅱ.ひとの流れの創生(1)シテイセールス強化による市内移住の促進」において、職住近接への取組を推進するとともに、定住化施策として積極的にアピールしてまいります。</p>
21	基本目標Ⅰ しごとの創生(3)	<p>・p20の図で示されているように、古賀市内での労働生産性は、県平均や全国平均に比べて低い。産業構造の違いによるものかもしれないが、従業員さんのワークライフバランスの実現による労働生産性の向上を図る必要があるのではないかと。この観点で、市内企業の従業員に古賀に暮らすことを提案したり、企業の福利厚生やメセナ・CSR活動と関連付けて、古賀市内の公民館での学びやNPO活動、市の開催するスポーツ・文化行事への参加呼びかけなどに力を入れるという項目を追加してはどうか。また、古賀市の企業が、古賀市の空き家を社員の社宅や福利厚生施設として借り上げるような場合に、何らかのインセンティブを提供してはどうか。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>ご指摘のとおり「地方創生」においては地域における労働生産性の向上が強く求められていることから、本総合戦略においても今後企業のニーズを把握し、連携して取り組んでまいります。</p>
22	基本目標Ⅰ しごとの創生(4)	<p>・農業という仕事の魅力と、古賀の農産物の魅力をより効果的に伝えるために、「野菜もりもり応援店」等の食育に力を入れている企業の飲食店の方や、古賀の食品加工団地の企業の商品開発部門の女性の方、あるいは「こもこも」の読者や編集者などの子育て中の女性の方などによる、相乗的な情報発信のしくみを構築できないでしょうか。たとえば、「こもこも」の紙面や古賀市Webサイト・フェイスブックに、①子育て中の農業女性が登場したり②保育園幼稚園や小中学校で子どもたちのために収穫体験や田植え体験などに協力して下さる農業者の女性が紹介されたり③個室対応や授乳室のサポートがあり、食育・地産地消についても理解があつて、子どもを連れて安心して食べに行くことができる飲食店が紹介されていたり、というイメージです。農業の魅力を伝える内容を、農業以外の分野に興味がある媒体や、女性に直結する媒体に掲載することで、古賀市で農業を営む女性の方の魅力をより訴求力ある形で伝えられるのではないのでしょうか。こうしたプロセスを通じて、女性農業者の地位向上や女性の農業参入、そして6次産業化が実現を後押しできるような気がします。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>ご意見として承ります。 市内農業の活性化については、庁内横断的な事業展開を検討してまいります。併せて、子育てにかかわる情報発信については、より一層充実した取り組みを推進してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
23	基本目標Ⅰ しごとの創生(4)	<ul style="list-style-type: none"> 森林の有効活用として森林飽和解消、森林循環のため、新たな公共建築物に古賀産木材を必ず使用し、地元材活用の気運を高める。 	<p>ご意見として承ります。 古賀市における林業振興については、総合振興計画に則り、効率的な林業経営と林産物の直販を促進します。</p>	<p>公共建築物等における木材の利用促進については、既に庁内で方針を策定し、推進しているところです。地元産木材の活用については、先進事例を調査研究し、手法を検討してまいります。</p>
24	基本目標Ⅰ しごとの創生(4)	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地の増加や、生産者の方の高齢化を踏まえると、「まったく農業に関わったことがない／相続する農地を持たない就農希望者」の受入・定着を図ることができる体制づくりやそのPRが必要ではないでしょうか。そのために、地元へ根付き、十分な経験を蓄積し、農地を所有できるまでの長い年月がかかる中で、最初に数年程度は収穫に関わらず最低限の賃金を受けられるようなファーストステップを保証するような仕組みを「地域おこし協力隊」等の制度も活用したりしてつくることができないのでしょうか。また、新規就農希望者が利用できる農地があれば、その利用可能性を後押しするような、就農希望の段階の若者を誘致するような要素は記載できないのでしょうか。本項目が新規就農が確定した人への支援内容なので、その一歩前の取り組みもあつたらと思いました。 	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>新規就農支援については、「人・農地プラン」に基づく支援の実施により、農業担い手の増を図ってまいります。</p>
25	基本目標Ⅰ しごとの創生(5)	<ul style="list-style-type: none"> 地域発信として、薬王寺温泉を積極的に全国にPRし知名度を上げ古賀市に宿泊客を誘致し、農産物販路拡大等と雇用の拡大を図る。 	<p>「基本目標Ⅰ.しごとの創生 (5)観光産業の活性化」において、主な事業として記載予定の「観光振興事業」及び「農産加工品開発支援事業」における今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>観光産業の活性化については、「しごとの創生」における政策課題と認識しており、農林業の6次産業化やヘルスケア産業との連携を含め、今後も推進してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
26	基本目標Ⅰ しごとの創生(5)	<p>・こちらは、情報発信にもう少し力を入れたらどうか、と。住んでから知ることが多かったので・・・。</p> <p>ただ、観光は古賀市内の方に知ってもらいたい、というような情報発信が多い気がしているのですが、ターゲットはそちらなのでしょうか？</p>	<p>「基本目標Ⅱ. ひとの流れの創生 (1) シティセールス強化による市内移住の促進」において、広報手段を活用した効果的なシティセールスを推進します。</p>	<p>観光情報については、市内の方・市外の方双方に対して、目的に応じた情報発信ができるよう努めてまいります。</p>
27	基本目標Ⅰ しごとの創生(5)	<p>・古賀市では、行事やイベントが多数存在していますが、チラシやWeb、マスコミ利用による誘客活動が、ここ数年は増えてきたとはいえ、まだまだ取り組める余地が残っているように思います。より誘客活動を高めるためには、ブログは積極的に更新されていますが、ポータルサイトとしてまだ力を発揮していない観光協会さんのサイトを魅力的なものにさせていただくことが必要ではないかと思えます。観光協会さんの自助努力なのか、それを支援する行政の方の役回りかわかりませんが、いずれにせよ魅力的なサイトになることを願っています。また、多様な主体で多様な行事・イベントが行われていますが、もう少し行事イベント間の連携が取れたら相乗効果があつていいのにな・・・というものが多々存在しているような気がしています。この調整機能が主体間で行えるような体制作りも目指していただけたらと思います。それと、観光・交流の人口増のためには、多様な主体がPRのために使える観光資料集・素材集のようなものがどこかに蓄積されていたらと思います。他の自治体では、撮りためた写真などが観光協会に集積され、所定の手続きを経ると会員企業の飲食店やホテル・イベント会社・旅行代理店などがポスターやパンフレットの素材として利用できる仕組みがあるところや、ロケ地を探すテレビ局などに提供するフィルムコミッション機能がありますが、古賀市においてもこういう資源蓄積があればいいなと思います。「古賀の魅力再発見コンテスト」で集まった写真など、著作権等の整理を行っていただき、古賀市役所や観光協会にあつまる資料を活用できる仕組みができれば、インフラやSNS等のツールがさらに生きてくるのではないかと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>行政情報や観光情報の発信については、インターネットなどのICTを一層活用し、積極的に推進してまいります。</p>
28	基本目標Ⅰ しごとの創生(5)	<p>・スポーツコンベンションやヘルスツーリズムの創出を図る旨の項目を新規に追加してはいかがでしょうか。</p> <p>古賀市が持つ医療資源と、福岡市との近接性は、外国人滞在客を含むヘルスツーリズムの可能性を有していると思います。国内や近隣に限っても、スポーツ団体の練習試合や合宿、大会などが古賀市でよく開催されており、市の主催するウォーキングイベントも長く続けられてきています。薬王寺温泉の旅館では、子どもたちのスポーツ合宿の受け入れなども行われているようですし、次のラグビーワールドカップに向けて福岡で開催される試合に向けての滞在地として手を挙げるようなことも検討してみる意義ぐらいはありそうな気がします。ウォーキングやサイクリングは、全国的に嗜好者も多く、長期にわたって繰り返し滞在も見込めることから、じわじわと飲食・宿泊ニーズが掘り起こせるのではないのでしょうか。また、ウォーキング・マラソン・サイクリングの大会開催による参加費収入等の直接収入も生み出すイベント開催も、古賀市に適した形で検討できないものでしょうか。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>スポーツコンベンションやヘルスツーリズムの政策検討にあたっては、市内観光資源のさらなる活用をふまえて、庁内横断的に検討してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
29	基本目標Ⅰ しごとの創生(6)	<p>・古賀市内の営利事業者・非営利事業者が、金融機関による支えを期待しているのは、古賀市役所と連携協定を結んだ金融機関にとどまりません。市役所が古賀市の事業者のために金融機関と連携を結んでくださるのはありがたいことですが、本戦略上は、もっと幅広い金融機関の果たす役割を記載してはいかがでしょうか。 例えば次のようなイメージです。</p> <p>(6)金融機関と連携した産業基盤の強化</p> <p>・市内の産業を構成する事業者が、個々の事業を安心して継続し、雇用を継続できる環境を整えられるよう、金融機関や支援機関と連携し、貸し手と借り手の信頼関係の構築やノウハウの提供を図る。</p> <p>・地域産業の経営安定化や新規事業展開の支援をめざし、古賀市の産業構造に精通した金融機関と必要に応じて連携協定を締結し、市内産業基盤の強化と経済・雇用の好循環を目指す。</p>	<p>「基本目標Ⅰ.しごとの創生 (6)金融機関との包括連携協定の締結及び締結内容に基づく産業基盤の強化」において下記のとおり修正します。 (修正前)「金融機関との包括連携協定を活用し」⇒(修正後)「① 金融機関との包括連携協定等を活用し」</p>	<p>金融機関との連携については、本総合戦略における戦略イメージと基本目標を踏まえ、多角的に検討してまいります。</p>
30	基本目標Ⅰ しごとの創生 (その他)	<p>・政府見解にもあるが高齢化率を、先んじて75歳・80歳に引き上げ、まず市役所内で雇用する。さらに市内企業に対しても高齢者の雇用促進を優遇税制によって促す。</p>	<p>「基本目標Ⅳ.まちづくり創生 (5)健康長寿社会の構築と高齢者・障がい者の活躍推進」において、高齢者の識見・経験を活用した生涯雇用に取り組みます。また、主な事業としてシルバー人材センターへの支援や無料職業紹介所の充実により就業支援を実施します。</p>	<p>市役所における臨時的任用職員等の任用につきましては、以前より年齢制限を設けておりません。今後も高齢者の皆さまの識見・経験を活用できる雇用の場として任用してまいります。市内企業における高齢者の雇用促進につきましては、ご意見を参考にしつつ、高齢者の生涯活躍を推進してまいります。</p>
31	基本目標Ⅰ しごとの創生 (その他)	<p>・都市部の小世帯よりも田舎の多世代同居形態の方が高齢者に幼児の世話を任せることが出来るメリットがあるため、二世帯以上の多世帯住宅の建設に補助を行うことで環境を整備する。付帯効果として育児を終えた女性が社会に戻り、再就労することにも期待できると考える。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づきながら、今後も子育て支援施策の推進に努めてまいります。住宅建築や中古住宅リフォームへの補助につきましては、国県の施策動向や市内の住宅需要などの現状を踏まえながら検討していきたいと考えております。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
32	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(1)	<ul style="list-style-type: none"> •SNSの活用、住んでいる市民を巻きこんでの情報発信、もちろん市の顔である市長や広報の方々は、積極的に顔出しして、親しみやすいイメージを出すと思います。 市役所では伝えられないことは、民間委託するなり、時々、市民公聴会みたいなのを開いてみてもいいのかもしれない。 	今後の事業展開の参考とさせていただきます。	「基本目標Ⅱ. ひとの流れの創生 (1)シティセールス強化による市内移住の促進」においては、ご意見を参考にしつつ、多角的な情報発信を検討してまいります。
33	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(2)	<ul style="list-style-type: none"> •古賀市における空き家とは？本人が住んでなくても荷物があって実質、空き家みたいになっている、という話を聞いたことがあります。 	ご質問にお答えします。	「空き家等対策の推進に関する特別措置法」において「空き家等」とは「建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地」と定義されています。ご質問の場合は、使用実態により判断されると思われます。
34	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(2)	<ul style="list-style-type: none"> •市内の土地・家屋の所有者が空き家状態になってしまうのは、貸した経験がないことによる不安か、貸したいという動機がないといった心理的要因が大きいと思います。そうした不安を解消し、空き家にしておくよりも貸し出したいという心理状態にするために、訴求力のあるPRや貸すことによるインセンティブの提供を図り、空き家状態にしないようにして、まずは空き家を活用できる環境をつくることに努めるような項目が必要なのではないでしょうか。 	今後の事業展開の参考とさせていただきます。	空き家・空き地に対する実態調査の実施結果を踏まえ、移住希望者・空き家所有者双方のニーズに即した事業展開を検討してまいります。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
35	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(3)	<p>・人材育成や外部人材の導入は、大学等との包括連携協定に限定することなく取り組んでいただく表現にならないでしょうか。例えば、総務省の集落支援員制度や地域おこし協力隊の制度により、地域コミュニティを支える人材を誘致する仕組みはつくれないでしょうか(近隣自治体が地域おこし協力隊制度を用いて2名の方を誘致していますし、観光協会の事務局長を全国公募し旅行代理店出身の方がその業務についています)。また、古賀市役所においても、中心市街地活性化や広報など、専門分野を有する方を任期付き職員として採用するなど、今までにない解決策を持つ方を招聘するような方法がとれないものでしょうか。</p>	ご意見として承ります。	<p>古賀市は九州産業大学、福岡工業大学、福岡女学院看護大学と包括連携協定を締結しており、同協定を活用し、地域で活躍する若者の人材育成をめざしてまいります。また、今後もニーズを踏まえつつ他の大学や団体等との連携も調査研究してまいります。外部有識者や識見者の活用・任用についてもニーズを踏まえつつ検討してまいります。</p>
36	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(4)	<p>・古賀市の面積約42平方キロメートルの内、市街化区域が約11平方キロメートル、国道3号線より東側の市街化調整区域が約10平方キロメートル、米多比から清滝までの準都市計画区域約10平方キロメートル、犬鳴山が約11平方キロメートル有り、犬鳴山部分を自然林で残し、市街化区域及び犬鳴山部分以外を、都市計画区域に編入し市街化調整区域とし、その市街化調整区域を土地区画整理事業により、将来的に古賀市の自然林以外を市街化区域に編入する地区計画を策定し、働く場所を作り、沿道沿線にはサービス施設を広く設置できるようにし、固定資産税や法人税等の税収が多く見込めるまちづくりになるように、また、これにより福祉関係も充実する政治をしてほしい。</p>	<p>「基本目標Ⅱ．ひとの流れの創生 (4) 新たな企業進出や拠点強化への支援拡充」において、下記の政策を追記します。 「・企業誘致の基盤整備を推進するため、古賀インターチェンジ周辺や国道3号、主要地方道の沿線、現工業団地周辺において有効な土地利用転換を図る。」</p>	<p>当市の土地利用政策については、総合振興計画や都市マスタープランに則り、農業や自然環境、地理的条件を踏まえつつ、計画的な土地の有効活用を図ってまいります。都市計画区域への編入についてはご意見として承ります。</p>
37	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生(4)	<p>・化学系学部の就職先の確保(企業誘致)を盛り込んでほしい。 (理由)古賀市を含む福岡都市圏には、九州大学と福岡大学という2つの総合大学がある。しかし、福岡都市圏には化学系学部(理学部、農学部、薬学部など)の主な就職先である食品メーカーや製薬企業の検査・研究部門が少なく、化学系学部の学生は福岡都市圏外に就職せざるを得ない現状がある。古賀市は福岡都市圏の中でも工業が盛んであり、しかも食品製造業が上位である(P14)。これを活かして、食品メーカーの検査・研究部門を誘致し、就職先が少ない化学系学部の受け皿となれば、若者の定着や移住が期待できるのではないかと。</p>	<p>「基本目標Ⅱ．ひとの流れの創生 (4) 新たな企業進出や拠点強化への支援拡充」において、進出企業や既存企業への支援を強化するとともに、本社機能等の移転についても支援措置を検討します。</p>	<p>ご意見いただいた検査・研究部門等の誘致については、本社機能の誘致とあわせて本総合戦略において積極的に検討してまいります。また、古賀市は九州産業大学、福岡工業大学、福岡女学院看護大学と包括連携協定を締結しており、同協定を活用し、地域で活躍する若者の人材育成をめざしてまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
38	基本目標Ⅱ ひとの流れの創生 (その他)	<p>・新卒社員の採用促進も盛り込んでほしい。 (理由)P61で「20代前半の若者が就職を機に本市を離れる傾向が強い」と分析されているが、一方で古賀市の企業が新卒社員の採用に積極的ではないことが、P43の資料からうかがえる。古賀市内に新卒者の就職先が少ないのであれば、若者が古賀市を離れるのは当然である。古賀市の企業が新卒社員の採用に積極的ではない原因を分析し、新卒社員の採用に積極的になる施策が必要ではないか。古賀市の若者が、古賀市を離れずに定着することは、親の介護(経済的にも労働力としても)という側面から、高齢者福祉にも好影響があると考えられるため、市外出身者の古賀市への移住よりも重要であると考ええる。</p>	<p>「基本目標Ⅰ.しごとの創生 (1)活力に溢れた地域経済実現に向けた中小企業の強化」において、地元企業への就労促進を目的とした「ふるさと就労促進事業」を活用し、新卒者を含めた市民やUJターン者等を雇用する企業を支援します。</p>	<p>新卒社員の雇用促進により、若者にふるさとに住み続けてもらう環境を整えることは、本総合戦略の大きな課題であると認識しております。具体的な手法につきましては、ご意見を参考にしつつ、今後の事業展開を図ってまいります。</p>
39	基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)	<p>・近隣の市町村に比べて、あまりにも医療費助成が少なすぎます。医療費助成は誰が見ても明らかなことからマイナスイメージが大きいです。他自治体の子供は医療費がかからず、古賀市は1500円かかるのは不平等この上ないです。(前年度はゼロだったので、前市長はそれでも努力されたかもしれませんが・・・さんざん待ってコレなの？と評価され)</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>古賀市においては、入院医療費の18歳までの助成と通院医療費の小学校6年生までの助成を実施しており、特に入院医療費助成については県内でも極めて高い水準となっております。今後とも子育て世帯のニーズの把握に努め、負担軽減を図ってまいります。</p>
40	基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)	<p>・新興住宅地に引っ越してきていないので、地域になじめてません。積極的に地域活動に参加していないのもあるのかもしれませんが、小さな地域での、子連れで参加できるような取組はすくない。転入前自治体では、歩いて行ける場所に、子連れでいける「ひろば」事業があった。古賀市では、でんでん虫が対応するのかもしれないが、小学生+保育園児連れでは連れて行くところがない(これは転入前自治体も同じだった) この部分の何か打開策が欲しい プレーパークは、そういった面で、とても良いのですが、毎月1回なのが・・・</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。各種交流・教室・相談事業については、今後も保護者等のニーズを踏まえながら、効果的な事業展開を図ってまいります。また、学童保育とアンビシャス広場の連携推進など地域における子どもの健やかな育成を支援してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
41	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・若者の出会いの場を一回の出会いでは、不十分で相互理解が進まないことから2ヶ月に1～2回定期的に開催する。</p>	<p>「基本目標Ⅲ. ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」において、若者の出会いの場を提供する団体の活動を、国・県と連携して支援していきます。</p>	<p>結婚支援の推進については、今後他の先進自治体の事例を参考にしつつ、県や市民団体等と共働して検討していきたいと考えています。</p>
42	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・各種団体の支援にあたって、その選定にあたっては「古賀市補助金改革実行計画」に導入予定とされている「提案型公共サービス改善事業」や、「公募型補助金事業制度」のルールに基づき、支援内容や事業形態、支援団体の特性などを踏まえ、公募によるものとなることを原則としていただきたい。結婚を希望する独身男女への支援策は多様な形が存在していますが、安心こども基金による施設整備を公募にしなかったために生じた、いろいろな混乱を繰り返すことがないように、そしてそうした混乱に独身男女とそのご家族を巻き込むことがないように、なにとぞ行政には結婚支援と協働(共働)の考え方にご理解をいただきたい。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>古賀市における補助金制度については、「古賀市補助金改革実行計画」に基づき、公益性・平等性等に留意しつつ運用してまいります。</p>
43	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・あかちゃんフェスタができたらいいですね。お母さんと赤ちゃんたちが参加できるのがいいですね。土日よりも平日でもいいですね。現在、まちづくり部活サロンでは数組のサロンが立ち上がって女性にやさしくあかちゃんに優しく活動がされていますよね。勿論、地域の公民館の中にもできていますよね(おひぎでだっこの読み聞かせや子育てサロン、ヘルスセンターに含まれるのもあるでしょう)どこですか?サンコスモ古賀でもいいし(このときは土日?業務にさし障りなければ平日でも可能性あり?)もし、空き家が可能ならばそれでも)子育てサポーターや高齢者の方の参加も大いに含まれるとすると、古賀市で「赤ちゃんの日」誕生です。他自治体では、民間でそういうあそびっこの日があるようです。(勿論自治体が補助しているようすが..)</p>	<p>「基本目標Ⅲ. ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」において、地域で子育て世帯を支える環境整備を図るとともに、子育て支援事業における各種交流・教室・相談事業を実施します。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。各種交流・教室・相談事業については、今後も保護者等のニーズを踏まえながら、効果的な事業展開を図ってまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
44	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・古賀市の各地域は、活気や子育て世代への理解度に格差があることがわかりました。例えば「舞の里地域」は「年長者のおじさんは穏やかでいつもニコニコしてる」とママさん達から慕われている感じでして、子育て世代へ暖かい目があり、理解や取り組みがやや積極的であるようです。しかし、子どもに冷たい地域もあります。地域や行政が、「子育て支援」「地域の子どもを育む自治会」とスローガンを掲げるだけでなく、行政主導をしないと、地域で温度差にバラつきが生じ格差がでます。子どもが多い地域がありますが、大きな公園、球技やいろんなスポーツを自由に行える公園が少ないです。そのような居場所づくりを、地域ごとリサーチして取り組んでもらいたいです。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。公園整備については、地域のニーズ、財政状況、整備効果等を踏まえつつ取り組んでまいります。</p>
45	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・近隣他自治体は、子どもの広場が充実していて、幼児から中学生まで居場所、遊び場所があります。そこで宿題したり、遊んだり、お友達とすごしたりできる。古賀市は子どもの居場所が少ない。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。各種交流・教室・相談事業については、今後も保護者等のニーズを踏まえながら、効果的な事業展開を図ってまいります。また、学童保育とアンビシャス広場の連携推進など地域における子どもの健やかな育成を支援してまいります。</p>
46	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・近隣他自治体は、整備された海岸や磯遊びのできる岩場、公園や空き地もほどほどあります。古賀市は子どもが多い校区でも、自然遊びができる公園が無いし、徒歩圏内に児童館もありません。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>公園整備については、地域のニーズ、財政状況、整備効果等を踏まえ取り組んでまいります。子どもの居場所づくりについては、児童館等の一層の活用を視野に入れつつ、本総合戦略において推進してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
47	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・幼児～小中学生を網羅する居場所や体を動かしてサッカーや野球で遊べる公園が徒歩圏内にあまりにも無すぎます。 ある地区は「公園でボール遊びしてはいけません・・・自治会」と看板があります。 昔はボール遊びできない公園がありましたか？ そんな惨状に行政の方はお気づきですか？</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>地域の公園については、今後とも地域住民と行政の共働による維持管理を推進してまいります。安全面等への配慮による公園の利活用の制限などについては、地域の中で十分協議していただき、利用者・近隣住民双方への配慮をお願いしたいと考えます。</p>
48	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・近隣他自治体は、子ども目線のイベントが充実していて、飲み食いを含めお安く利用できる楽しい企画が多い。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>同左</p>
49	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・近隣他自治体は海水浴もできるエリアが多い。古賀市は海砂を業者がとりまくり、埋め立てもせずほったらかし。そのせいで遠浅のはずが、少し行くといきなり深くなり、入ると非常に危険な海になっている。不備を長年そのままにしている、観光資源さえも無駄にしています。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>市海岸部のエリア(海浜・松林)については、景観と松林の防風林機能の維持保全に留意しつつ、今後観光資源としても活用を検討してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
50	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・小学校の登下校見守り隊のボランティアについては、老人会等の活用推進を図るなど働く母親世代の負担を少なくしてほしい。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>登下校見守りのボランティアについては、地域における自助協力により実施されています。当番等の割り振りについては、地域の中で十分協議していただき、様々な立場の方への配慮をお願いしたいと考えます。</p>
51	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)</p>	<p>・土・日曜日に子育てセンター(でんでんむし等)が開けられると、お父さんの育児参加が見込まれると思うのです。実例として、近隣他自治体は最近そのような場所ができていて、土日には、お父さんお母さんの姿を見かけます。働いている親もおなじです。</p>	<p>「基本目標Ⅲ. ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」において、子育て支援事業における各種交流・教室・相談事業を実施します。</p>	<p>つどいの広場(でんでんむし)では、平成25年度から父親育児参加促進事業(イクメン道場)を年6回土・日曜日に開催しております。各種交流・教室・相談事業については、今後も保護者等のニーズを踏まえながら、効果的な事業展開を図ってまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
52	基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)	<p>・子育て(孤独な子育て)になりがちな現在、子育てに閉塞感を感じやすい傾向があります。そこで支援施設の主だった目的は「子育て世代の交流」にあると思います。交流の場として、ついでに情報発信もできる場でもあるのです。</p> <p>子育て世代は一人っ子という方より、兄弟姉妹児がいる家庭が多いです。</p> <p>そこで、「でんでん虫」など未就学児の集える広場はあっても、そこには小学生は入れないので、親は上の子もだけ家に置くわけにもいかず、利用しにくい点があります。現実的な目で「どのような施設のあり方が利用しやすくニーズに合うか」を考え、子育て世代からの意見を真摯に取り入れるのが改善への原動力になると思います。</p> <p>案として「でんでん虫」の前方の部屋に有効な量の広いスペースがあります。(検診の時等のイベントにしか活用してない)どうして、そこを上の子どものために活用させないのか不思議ですし、土日も利用できるようにすべきでしょう。</p> <p>また、でんでん虫は予算が少ないためか、楽しいイベント企画が少なく予算も必要と思います。</p> <p>子育て支援センターでんでん虫は0～2歳くらいまでは良さそうですが、3歳からは走ると注意されるので子供は退屈になってきます。外遊びできたり、走れる環境を併設させないと赤ちゃんだけの遊び場になり、兄弟児をもつ親の居場所がありません。</p> <p>現在の子育てのニーズが読めるのは、現に子育てまっただ中の若い世代ですので、その中で子育て支援施策に明るい方、支援に積極的なスタッフをコーディネーターとして活用するのが、良い策ではないかと思います。</p> <p>それに伴い、情報発信基地として、子育てや家庭教育に魅力的な講座や講演、イベントを企画していくのが、子どもや親の発展に欠かせないと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。</p> <p>つどいの広場「でんでんむし」に関するご意見を参考とし、利用者ニーズに沿った内容の検討・充実をより一層進めてまいります。</p>
53	基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)	<p>・登下校の見守り隊など、他に本当に子供のためを考えて活動されている方もいらっしゃいますが、まだまだ少数なのが残念です。</p> <p>子どもに優しい眼差しをもたない住民性では、その子どもは、地域に愛着を持たない大人に育ちます。</p> <p>未来の子どもたちを見守っていく、それは昔から日本人が当然のようにやってきたことです。今の年長者も昔は子どもで、すごいヤンチャな悪さをして、昔のおじいちゃん達から見守ってもらい、受け入れてもらい、人の土地だろうと遊びまわっていたような素晴らしい環境の恩恵を受けたはずで。</p>	<p>ご要望として承ります。</p>	<p>登下校見守りのボランティアについては、地域における自助協力により実施されています。実施体制等については、地域の中で十分協議していただき、様々な立場の方への配慮をお願いしたいと考えます。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
54	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (3)</p>	<p>・学校に対し、近くで遊んでいる子ども達の声がうるさい等の苦情電話があると聞く。地域における子育てへの理解を増進してほしい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て環境の充実に取り組んでまいります。 地域で子育て世代を支える環境づくりや、子どもの居場所づくりは本総合戦略においても積極的に取り組んでまいります。</p>
55	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (4)</p>	<p>・現在の日本社会では、女性が結婚・出産をして継続的に働くことは、実は非常にしんどいです。 保育園という助けはありますが、子どもはロボットじゃないので、風邪もひけばけがもします。そういう時くらい、子どものそばについてやれるような会社があればいいですが、ほとんどありません。 たくさん稼ぎたい人ばかりじゃないです。 ★バリバリ働ける人 ★1日数時間働ける人 ★スポット的に働ける人 上記の人を、うまく組み合わせることができる仕事を考える企業への支援などをおこなっていただけたら、と思います。働きやすい会社がある、というのは女性だけではなく、様々な人にとっても働きやすい会社になるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>「基本目標Ⅲ. ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (4)ワークライフバランスの実現」において、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、企業における子育て支援の取組を推進するため必要な連携を図るとともに、ご指摘いただいた支援についても今後検討してまいります。</p>
56	<p>基本目標Ⅲ ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (4)</p>	<p>・市内事業所や各種団体における労働生産性向上に向けた取り組みと支援を示す内容の追加を検討していただきたい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>ワークライフバランスの実現と労働生産性の向上の両立をめざすべく、必要な支援について今後検討してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
57	基本目標Ⅳ まちづくり創生(1)	<p>・いわゆる買い物難民対策には、農業生産者の移動販売からのアプローチのほか、流通事業者の移動販売や、地域コミュニティ(自治会)などの事業にしたり、「地域コミュニティ(の有志が)が設立した事業者による事業」も考えられます。特に「地域コミュニティ(の有志が)が設立した事業者」が新規創業となる場合には、古賀市創業支援事業計画が大きな役割を果たすと思うので、その存在をPRしてほしい。また、平成26年度補正(平成27年実施)小規模事業者持続化補助金には、買い物難民対策を行う事業者への拡大枠があり、既存商工事業者のみならず、地域コミュニティでソーシャルビジネスを志すような人材への情報提供も注力いただけたらと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>地域コミュニティの活性化については、本総合戦略において「小さな拠点」の形成を中心に取り組んでまいります。また、そこからの創業等への発展についても官民連携や庁内横断的な政策間連携による事業展開や必要な情報提供について今後検討してまいります。</p>
58	基本目標Ⅳ まちづくり創生(1)	<p>・学校や公民館を小さな拠点と位置づけ……の中に子育ての視点を入れていただきたい。地域での子育て支援は子育て世代も望んでいる事柄で 歩いていけるとところに子育て支援の場が欲しいと聞きます。地域に顔見知りが出来、安心して子育てできる町を目指していくことはそのまま地域の活性化に繋がると考えます。地域のみなさんに関わってもらい、支えてもらう子育てができる古賀市は子育て世代への大きなアピールポイントになります。既に地域の公民館や学校で子育てサロンや、子育てサークルが展開されています。これからもこの取り組みが増えて地域が活性化されるよう是非、「子育て」の視点を入れていただきますようお願いいたします。</p>	<p>「基本目標Ⅳ. まちづくり創生 (1)「小さな拠点」(多世代交流・多機能型拠点)の形成」において、「子育て」の視点を追加し、次のとおり政策を修正します。 「・学校や地域公民館等を小さな拠点と位置づけ、ヘルスステーション事業や介護予防事業の推進と地域の子育て、教育、文化・芸術、スポーツ資源の活用による特色あるまちづくりに取り組み、地域コミュニティの維持・活性化を図る。」</p>	<p>地域における子育て支援については、古賀市子ども・子育て支援事業計画に則り、子育て環境の充実に取り組んでまいります。本総合戦略においても、「基本目標Ⅲ. ひとの支援の創生(結婚・出産・子育て・教育) (2)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」において、地域で子育て世帯を支える環境整備を図ることとしており、小さな拠点施策と連携しつつ事業展開を検討してまいります。</p>
59	基本目標Ⅳ まちづくり創生(1)	<p>・生涯学習をまちづくりの基軸に置くことは大切ですが、家族構成の核家族化や子育て環境・介護環境の変化を踏まえると、20世紀的な対価・報酬の支払い方では、地域の人材はこれからの地域を担うことができません。コミュニティの維持もできません。学んだことを活かし、地域の人材が地域を支えるためには、役割分担と、最低限かかった費用の回収ができる考え方が必要です。そういう意味で、「生涯学習の推進」と「課題解決やまちづくり」の要素は分割して、2項目に分けて記述をお願いします。また、行政と民間の共働について、総合戦略を機に双方見つけなおす機会がつかれないでしょうか。行政と民間で相互に得意な部分を役割分担をしていくのが本市かと思いますが、無理して同時に歩調を合わせようとして共倒れの危機にあるような気がしています。戦略的に役割分担を見直す共働に、ステップアップできたらと思います。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>「基本目標Ⅳ. まちづくり創生 (1)「小さな拠点」(多世代交流・多機能型拠点)の形成」においては、市民・団体・NPO等と連携しつつ生涯学習活動を推進することにより、地域を担う人材を育成し、学びによる地域の課題解決やまちづくりにつなげられるよう、戦略を推進してまいります。なお、共働推進は、古賀市共働推進の基本指針に基づき行っておりますが、古賀市自治基本条例(仮称)策定の中でも検討してまいります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
60	基本目標Ⅳ まちづくり創生(1)	<p>・市民活動支援センターの役割に大きく期待をしていますが、公民館法に基づく「中央公民館」と、NPO法に基づく同センターの役割が混同されているのに非常に違和感を感じています。同センターは、NPO法が規定する20の活動分野を中心に、公益に資する団体支援を通じ、行政では手が届かない公共サービスを担える団体やそれを支える企業のCSR活動を引き出すことが本来の役割ではないかと思えます。しかるに、本来のNPO法の20分野のうち社会教育分野に偏重しているとともに、本来公民館で公民館講座として行うべき取り組みが市民活動支援センターで行われていることにも違和感を感じます。子育て支援や結婚支援、創業支援や経済活性化、ヘルスステーション運営支援、男女共同参画やワークライフバランスなども意識した、NPO法の趣旨に基づく市民活動支援センターの機能が充実されることを願っています。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>市民活動支援センターの役割の見直しや機能の充実については、現在建設中の(仮称)生涯学習センターにおける機能や事業展開の検討と併せて整理を図ってまいります。</p>
61	基本目標Ⅳ まちづくり創生(1)	<p>・今の自治会制度だと、自治会が行政の下請け機関に成り下がっていて、自発的なものではありません。区長が行政職員のため、住民目線で活動したり、行政の目線になったり、相反する利害関係で苦しみ場合も多々あるでしょう。さらに、年長者ばかりが区長の自治会では、どうしても忙しい子育て世代の親はまかれていって自発性は失われるばかりです。そもそも自治会というのは、自然派生的な存在で、加入は任意であり、強制ではなく自発的組織のはずです。もっぱら行政の下請け機関になっている古賀市の自治会において、若い人や子育て世代が、自発的に入りたいと思はずがありません。入りたいと思わせる自治会にするのが大事なのです。地域の運動会一つとっても、「千円の弁当とビールなどが配られるので、そこで会費のもとをとらなきゃ！と思って家族全員参加するの～」と子育てママが本音を言うわけです。強制によるネガティブの極みで、おかしい感じになっています。若い人や子育て世代を振り向かせ、さらには選んでもらえる古賀市など、まだまだ遠いという現実に、まずは目を向けてからのスタートというのが本当です。</p> <p>近隣他自治体の取り組みの変形バージョンで、行政が介入して自治会の統一規格すると、格差が少なくなるかもしれませんが、下の世代が年配者に遠慮しながらモノを言わないといけないような陰湿な雰囲気もなくなるかもしれません。やる気があるならば、人材を起用して、若者の意見主体で戦略特区となるべく画期的な発案も、良いと思われれます。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>地域における自治会制度については、それぞれの地区の地域特性や歴史的背景の中で、共助の精神により運営されております。今後とも運営に関しては地域の中で十分協議していただき、様々な立場の方への配慮をお願いしたいと考えます。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
62	基本目標Ⅳ まちづくり創生(3)	・大根川修景・水辺公園予定地に隣接する土地を公園用地として購入する。同時に大根川都市部の水辺公園化駐車場を含め充実する。	ご意見として承ります。	都市計画行政におきましては、今後とも地域のニーズにあった公園整備と、安心して利用できる適切な維持管理に努めてまいります。
63	基本目標Ⅳ まちづくり創生(3)	・危険通学路が長年放置されたままです。危険すぎて、いつ子どもが事故に巻き込まれても不思議はありません。都市計画道路ができて危険箇所は改善されることはありません。	ご要望として承ります。	通学路に指定されている市道については、今後とも児童生徒の安全面に配慮した適切な整備と維持管理に努めてまいります。ご要望につきましては、具体的な危険箇所をご相談いただければと思います。
64	基本目標Ⅳ まちづくり創生(3)	・北花見南花見線の都市計画にあがっていて、それは旧3号の渋滞を回避するための裏道(うらみち)化する危険をはらんでいます。 渋滞回避の裏道にならないような施策は当然とるべきでしょうし、閑静な住宅地の雰囲気を壊さないよう、歩道と自転車道と緑地化を一体化する施策を考えるべきでしょう。 海に近く、サイクリングロードとしても良い立地でありますので、魅力的な観光資源になり得ます。 福津から新宮に渡す南北の道ばかりが大きく、東西の道幅は狭く、歩行者や自転車に極めて危険な今の状態が改善がされないと、渋滞や事故につながります。 東西の道路が狭いのは、水害問題にもつながります。下水管も小さな径になるから、処理能力を高められないのです。問題を先送りにせず動いてほしいです	ご要望として承ります。	古賀市における街路事業につきましては、今後とも地元住民の方々との十分な協議を重ねつつ、利便性や景観、観光資源との関係等、総合的な観点から検討・推進してまいります。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
65	基本目標Ⅳ まちづくり創生(3)	<p>・水道料金が高いと長く言われ続けています。家を建てるにしても、古賀市は他市より、「水道加入金」が著しく高く、談合かと言われる始末で要改善でしょう。上下水道料金の改善も言われ続けて長いですね。</p>	ご意見として承ります。	上下水道事業につきましては、企業会計における独立採算の観点から、今後とも経営の健全化と適切な料金設定等に努めてまいります。
66	基本目標Ⅳ まちづくり創生(4)	<p>・古賀駅西側の活性化について期待する方の声を多く聞きます。いろいろな経緯により、民間ベースでの都市基盤のリプレースを選択している状態であることは理解できます。そうであれば、そのためにTMO機能や経済活性化を志す組合組織やNPOなどの民間主導でまちづくりを行うプレイヤー育成や、そういったプレイヤーに対して市が包括連携協定を結んだ金融機関による重点支援のような形で、空き店舗を埋めていくような体制構築のようなビジョンが戦略上示されたら、心配している方も少し安心するのではないのでしょうか。</p>	今後の事業展開の参考とさせていただきます。	JR古賀駅周辺整備を中核とした中心市街地活性化については、本総合戦略の中で都市機能強化を目的として積極的に取り組んでまいります。
67	基本目標Ⅳ まちづくり創生(5)	<p>・人生の先輩方から、その素晴らしい経験と知識を受け継ぐとともに、先輩方にその人生の最後まで誇りある豊かな暮らしをしていただくためには、生涯に渡って何らかの対価のある労働ができる環境ができる環境があることはとても重要なことであると思います。しかしながら、その形態がすべて「雇用」される状態であることを目指すのは、雇用する側の企業の実情を踏まえると、なかなか大変なのではないでしょうか。もちろん定年延長や再雇用などがあれば一番良いとは思いますが、その経験と知識を活かしたシルバー起業も選択肢に入るような、そうした創業支援の環境をつくることを示してはどうでしょうか。また、歩いて通える仕事場として、地域コミュニティの維持をするための活動に対し、額は少なくとも報酬が出る形も増やしていけば、学んだことをまちづくりに活かしてくれる人材が地域に供給されていくことにもつながるのではないのでしょうか。そうしたことから、「生涯雇用」ではなく「生涯に渡って仕事ができる社会づくり」等の表現に変更できないのでしょうか。</p>	「基本目標Ⅳ. まちづくり創生 (5)健康長寿社会の構築と高齢者・障がい者の活躍推進」において、健康寿命の延伸や生涯雇用、生きがいづくり、生涯学習の推進に取り組みます。	本総合戦略においては、生涯雇用のみならず、健康寿命延伸や生きがいづくり、生涯学習の推進に取り組むことにより、高齢者の活躍推進を図ってまいります。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
68	基本目標Ⅳ まちづくり創生(6)	<p>・その手法の一つに、公募型補助金制度があるかと思いますが、よりその制度の成果を向上させたり、より多くの方が事業をもちよりたくなるように、「中間報告会」「成果報告会」などの団体の成果をPRする機会を設けてはどうでしょうか。団体側も企画を採択してもらえた荣誉・達成感をより実感でき、さらに継続したり補助金に頼らない体制作りにつながると思います。また、審査会においていろいろご指摘が審査委員さんから団体に寄せられていますが、そういったアドバイスをより団体が公益的な活動のために糧にできるように、よりアドバイスが伝わるような仕組み（たとえば審査員と団体の意見交換会をヒアリングのような形で開催するとか）を充実させ、採択団体が継続したりステップアップしたり、その団体に続こうとする更なる団体の参入を促してはどうでしょうか。あわせて、審査段階で落選した団体に対して、団体そのものに公益性がないという烙印がついたわけではなく、より事業をブラッシュアップして公益性を高めたり、補助という制度や公金の性質を理解してもらえようような学びの場がもう少し増えるとうよいと思います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>公募型補助金制度については、古賀市補助金改革実行計画に基づき、補助金の公平性を確保することを目的として実施しています。今後の事業展開については、ご意見を参考にさせていただきながら、団体の自立に向けた効果的な制度設計となるよう検討してまいります。</p>
69	基本目標Ⅳ まちづくり創生(6)	<p>・市民と行政の共働による行財政運営の推進のためには、起業や地域貢献を志す人材、若者、地域及び行政等をつなぎ、地域活動を支援するコーディネーター人材が必要であり、それもその人材個人に頼ることなく「中間支援組織」としての育成・形成が必要だと思えます。その「中間支援組織」が、校区コミュニティや自治会、あるいは企業・NPOを結ぶことで持続的な地域づくりと行財政運営の両立が図られると思えます。古賀の公共空間の中で、そういった中間支援組織が公共サービスを担うことで、ヘルステーション設置や学校開放などの取り組みも継続できるようになると思えます。そうした中間支援組織についての記載をご検討願います。</p>	<p>今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	<p>ご指摘の内容につきましては、市民活動支援センター役割の見直しや機能の充実に向けた取り組みや、古賀市自治基本条例（仮称）の策定の中で、古賀市に適した地域活動支援のあり方を検討してまいります。</p>
70	基本目標Ⅳ まちづくり創生(7)	<p>・「バイオマス発電などの再生可能エネルギーの活用」については大変評価できますが、そのあとに続く「検討」についてはどうかと思います。古賀市においてはすでに第一次環境基本計画で「生ごみの資源化・堆肥化の研究」を謳っており、それから10年以上が経とうとしています。また、バイオマスの活用技術については既に十分確立されており、実績も上がっています。今回の「戦略」では、もう少し踏み込んだ文言にはいかがでしょうか。</p>	<p>「基本目標Ⅳ. まちづくり創生 (7)循環型社会の形成」において、主な事業として記載予定の「循環型社会形成推進事業」において、循環型社会研究会答申後の進め方の整理と具体化の検討を進めます。</p>	<p>バイオマス発電などの再生可能エネルギーの活用については、循環型社会研究会の答申や先進自治体事例の調査研究等を踏まえつつ、古賀市の実情に応じた手法を慎重に検討してまいります。また、ごみの減量・再資源化についてはより効果を高めるべく事業展開を図ります。</p>

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画への反映	ご意見への回答
71	基本目標Ⅳ まちづくり創生(7)	<p>・近隣他自治体は燃えないゴミも、毎週、コミュニティ広場などで回収を行って、行政が企画し働いている。</p> <p>以前は古賀市も燃えないゴミも各戸回収したり、市役所で回収を行うようにしたりしていましたが、今では地域まかせになって、行政が何もしなくなりました。</p> <p>エコロの森というゴミ処理施設をかかえているのは古賀市なのに、その住民への恩恵はなく、実際、チャイルドシートを捨てるのに、古賀市は有料で、近隣他自治体は無料でした。</p>	ご要望として承ります。	<p>古賀市では「第2次古賀市ごみ処理基本計画」において、めざすべき将来像として「循環型社会」を掲げ、ごみの減量と資源の循環に取り組んでいます。</p> <p>本総合戦略においても上記政策の推進を図ることとしていることから、本趣旨につきましてご理解ご協力をお願いしたいと考えます。</p>
72	基本目標Ⅳ まちづくり創生 (その他)	<p>・古賀市内に古墳は数あると聞くが、「新古賀風土記」等の掲載は少ない。船原古墳発掘時期に並行して宗像、福津並みの古墳をPRしたい。</p>	<p>「基本目標Ⅱ. ひとの流れの創生 (1) シティセールス強化による市内移住の促進」において、広報手段を活用した効果的なシティセールスを推進します。</p>	<p>市の魅力の発信については、本総合戦略における重要課題と認識しており、今後の定住化施策の推進において効果的なシティセールスを検討してまいります。</p> <p>古墳を含めた文化財については、従来、国指定クラスの文化財が希薄であったことからPRに苦慮するところでしたが、今後は現在調査中の船原古墳を中心にPR手段等を検討してまいります。</p>
73	基本目標Ⅳ まちづくり創生 (その他)	<p>・やまの文化を創生。かわを美しくするのに川岸に桜並木を。たんぼの四季折々の美観、保存。これらを科学の目から考える。</p>	ご意見として承ります。	<p>景観については、古賀市美しいまちづくりプラン(景観基本計画)に則り、地域に愛着を持ち誇りうる景観まちづくりを推進します。</p>